

甲賀市 農業委員会だより

2017.2.15
第24号

甲賀市農業委員会
甲賀市水口町水口6053
TEL0748-65-0718

甲賀おおくぼ ファーム 輝け未来



こう ちちょう おおく ぼ
甲賀町 大久保

Q

甲賀町大久保は
どんなところ？

A

甲賀町内のほぼ中央に位置する人口3000人余りの集落で、農地面積は約36ヘクタール。農業は稲作が中心で、先人のご尽力のおかげで水利に恵まれ、熱心に米作りがされてきました。



コンニャクの栽培

Q

現在力を入れて
いるところは？

A

生産した米が京阪神に流通するように頑張っています。また、白ネギやコンニャクの栽培にも力を入れています。

Q

法人を立ち上げた
きっかけは？

A

米価の低迷や後継者の減少により「このままでは農地が荒廃する」という危機感が集落内に広がり、平成25年10月に集落内農家全戸加入による「農事組合法人 甲賀おおくぼファーム」を設立しました。役員で何度も協議を重ね、組合員の皆様のご理解とご支援を得て3年目を迎え、どうにか運営ができるようになりました。



白ネギの栽培

Q

苦労されている
ところは？

A

役員の大半がサラリーマンで、平日は退職者や自営業の役員に作業の負担がかかること。年々増加する受託農地・機械の老朽化・栽培技術の向上など問題が山積です。しかし、役員の平均年齢が50代で活気がありますので、皆でやりくりして頑張っています。さらに、支援部員の登録者も多く、積極的に応援していただいています。



ミーティングの様子

Q

今後の取り組みは？

A

「集落の農地は皆で力を合せて守ろう」の気持ちを共有し、今後も頑張っていきたいと思っています。(N)



◀ 直売所の運営もしています

かがやく未来に 鹿深の夢を

各地区でご活躍いただいている営農組合に、現在の苦労や今後の夢などを伺いました。



A～J 法人名(組合員数)

- ① 水稻以外で特に力を入れている作物・加工品
- ② 獣害！これが出ます
- ③ 経営上の問題点
- ④ 将来の目標・夢

A 春日営農組合(102名)

- ① みそ・こうじ
- ② シカ・イノシシ
- ③ 人手不足・高齢化・後継者不足
- ④ **組合員全員が活動に参画
直売所「かすがの郷」のさらなる活用！**

B 酒人ふぁーむ(55名)

- ① 菊・ハウス野菜・露地野菜・果樹
- ② シカ・イノシシ
- ③ 補助金頼り・未整備田の管理
- ④ **環境こだわり栽培大豆の加工品の販売を促進し、組合員への配当金を増額する！**

C 野上野アグリ(30名)

- ① 麦
- ② サル
- ③ 今後小麦に代わり補助金のある作物はあるか
- ④ **野上野アグリ生産米の
販売拡大！**

D すごいええのう鮎河(110名)

- ① 酒(鮎河)
- ② サル・シカ・イノシシ
- ③ オペレーター不足・後継者育成
- ④ **鮎河の農地を守り続け、
次世代に残す！**

E アグリあぶらひ(91名)

- ① 適当な作物を模索中
- ② シカ・イノシシ・アライグマ
- ③ 高齢化・後継者不足
- ④ **地域の農地を守り、美味しい油日
米の販売拡大を目指す！**

F 田堵野営農組合(40名)

- ① 麦・大豆
- ② 特にひどい獣害はありません
- ③ 高齢化・後継者不足
- ④ **区民誰もが農作業に参加でき、農業を
通して区民が交流できる組織づくり！**

G アグネット深川(27名)

- ① 飼料米
- ② サル
- ③ 後継者不足・収支
- ④ **3K(キツイ・キタナイ・キケン)
から脱却し、地域農業を守る体制
を整える！**

H 柑子営農組合(55名)

- ① 梅・もち米・飼料米
- ② サル・シカ・イノシシ
- ③ 獣害・排水不良
- ④ **梅干し・餅などの直売所を設置し
て六次産業化。地域の特産品に！**

I 宮町営農組合(86名)

- ① 野菜・そば
- ② シカ・イノシシ
- ③ 獣害・組合員の意思統一
- ④ **保全を含めた持続可能な経営で、
農地を未来に残す！**

J 黄瀬営農組合(76名)

- ① 秋野菜・加工品(みそ・そば)
- ② シカ・イノシシ・アライグマ・アナグマ・ハクビシン
- ③ 世代交代、オペレーターの育成
- ④ **獣害に負けない農業、儲かる農業、
農家レストランの経営！**

農地等の利用の最適化の推進へ

農業委員・農地利用最適化推進委員を募集します！

平成 28 年 4 月の法律改正により、農業委員会の業務が拡充され、農業委員に加えて、農地利用最適化推進委員を設置することとなりました。

平成 29 年 7 月 20 日から「新たな農業委員会体制」となるため、農業委員と農地利用最適化推進委員を募集しています。

今後の農業委員会を担っていただける方の推薦・応募をお待ちしています。

農業委員、農地利用最適化推進委員の推薦・公募の要項（概要）

農業委員

- ① 人数 19人
- ② 任期 平成29年7月20日から平成32年7月19日
- ③ 要件 農業に関する識見を有し、農地等の利用の最適化の推進や農業委員会の所掌事項に関する職務が適正に行うことができる方
- ④ 活動内容 農地の権利移動・転用許可の現地調査と審議、農地等の利用の最適化の推進に関する意見書の提出、農業者年金の加入促進、委員総会その他必要な会議への出席等
- ⑤ 委員報酬 月額 37,000円
(月額報酬の他業務に応じて加算措置があります。)

農地利用最適化推進委員

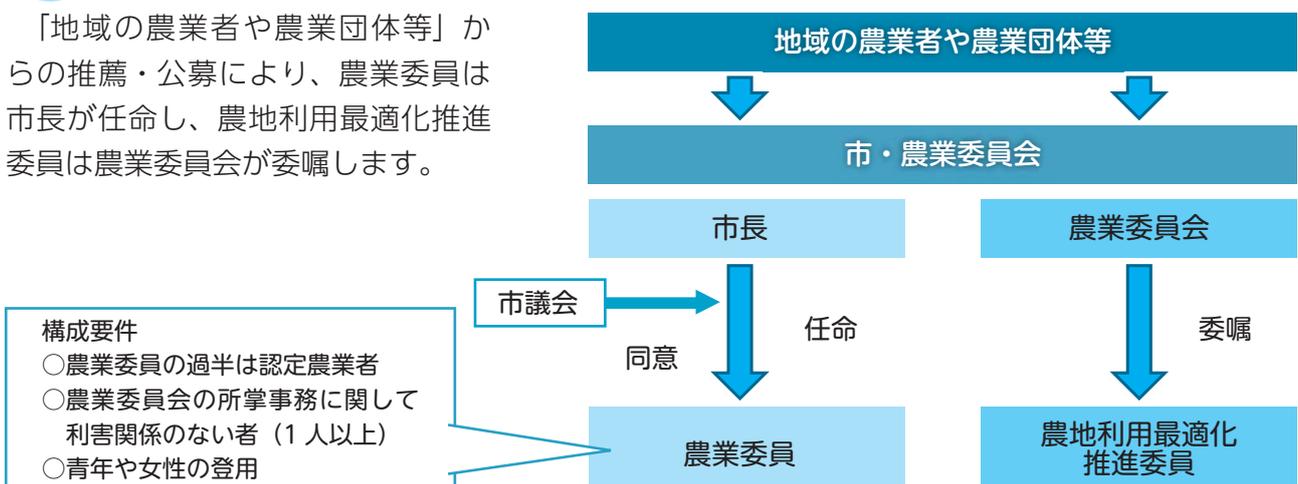
- ① 人数 45人
- ② 任期 平成29年7月20日以降に農業委員会が委嘱した日から平成32年7月19日
- ③ 要件 農地等の利用の最適化の推進に熱意と識見を有し、その業務を適切に遂行できる方
- ④ 活動内容 農地の権利移動・転用許可等の現地調査と意見具申、地域の農業者との話し合いへの出席、農地パトロール、農地利用状況調査等の実施等
- ⑤ 委員報酬 月額 22,000円
(月額報酬の他業務に応じて加算措置があります。)

共通事項

- ① 募集期間 2月1日(水)から28日(火)
- ② 資格要件
 - ① 任期の開始日において満20歳以上であること。
 - ② 甲賀市の職員でないこと。
 - ③ 農業委員会等に関する法律に規定する欠格者でないこと。
 - ④ 暴力団若しくは暴力団員またはこれらと密接な関係がないこと。
- ③ 推薦・応募の方法 申込書は農業振興課及び農業委員会に備え付けています。また、市ホームページからダウンロードができます。詳しくは募集要項をご覧ください。

農業委員、農地利用最適化推進委員の選任方法

「地域の農業者や農業団体等」からの推薦・公募により、農業委員は市長が任命し、農地利用最適化推進委員は農業委員会が委嘱します。



市長に意見書を提出

11月17日、農業の振興と農業者の経営安定のため、農地利用最適化に関する意見書を岩永市長に提出しました。これは、農業者の公的代表機関として、農業者からの意見を市の農業施策に反映させるために行うものです。

なお、意見書の内容は以下のとおりです。

農地利用最適化に関する意見書（概要）

- ① 人・農地プランの作成等への指導と地域リーダーの育成。
- ② 大型機械の導入や土地改良事業に対する支援。
- ③ 農業経営の多様化や6次産業化への支援。
- ④ 甲賀市産の農産物のブランド化・地産地消の推進。
- ⑤ 女性で組織する加工グループ等への支援。
- ⑥ 農地中間管理事業による円滑な集積のための、担い手の育成と貸し手の不安解消。
- ⑦ 獣害対策や耕作放棄地解消事業に対する支援。
- ⑧ 新規就農者をバックアップする体制の整備。
- ⑨ 茶業に対する助成・支援。
- ⑩ 飼料米の活用等、耕畜連携の推進。
- ⑪ 農業委員会との意見調整、事務局の強化。

(一)

意見書の詳細については、市のホームページでも閲覧できます。

<http://www.city.koka.lg.jp/1972.htm>

一農家の独り言

猫の目農政と評される中、今また「T P P」 「所得増大・

儲かる農業」「農地集積・大規模化」「農業改革・農業委員会改革」などの文字が躍る抜本的な農業改革が行われている。

規模の小さい農家の保護を優先する農政から、生産性向上や競争力強化を基本とする政策に転換するものであり、大規模化・利益追求型の農業経営を目指すものである。

しかし、これまで農業が続いてきたのは、儲かったからではない。食べるために農業が必要だったからである。

北海道や平野の一部を除き、大規模ほ場は少なく、多くは中山間農地である。獣害に悩まされながら規模拡大もままならず、高齢化の中、兼業零細農家が地域農業を支えている現状を見る時、今回の改革はいささか現場の実情とは異なる気がする。



小型コンバインによる稲刈り

大規模農業と中小零細農業の両輪で日本の農業・食糧を考えるべきではないか。日本の風土に欧米型の大規模農業は適さないだろう。

ここで物申す。農業は金儲けの手段ではない。国民を飢えさせないことが農業の目的である。気候変動や人口減少と高齢化という危機の中で、持続可能な農業生産という観点から改革を行うのが最適だろうと思う。そんな一農家の独り言。(二)

2016

大農業祭に出店



12月3日から4日にかけて、J A主催の大農業祭が開催されました。甲賀市農業委員会も出店し、地元の農業者から出荷いただいた新鮮野菜や焼きいも等を販売しました。



焼きいもは今年も大人気でした

さつまいもは不耕作地解消事業として農業委員自らが栽培しました。昨年も人気があったことから、今年は約3倍のいもを準備しましたが、両日ともに完売。正午頃には約10mの行列ができるなど、人気の高さを実感しました。



クイズコーナー

また、農業委員会の活動をPRするコーナーでは、「農業クイズ」に多くの来場者が挑戦されました。両日とも天候に恵まれ、盛況のうち閉幕することができました。ご協力をいただいた関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

(N)

女性農業委員活動

食育畑交流会

～水口町柏木小学校～



12月6日、柏木小学校の4年生を対象とした食育畑交流会が開催されました。子どもたちは食育畑での人参の収穫体験の後、水口の伝統野菜のかんぴょうや学校の農園で作ったさつまいもなどを使った料理に挑戦しました。



食育風景

食育畑交流会は、野菜を育てる楽しさや野菜のおいしさを知ってもらおうと、数年前から始まった体験型の取り組みです。

子どもたちからは、「大きな人参でびっくりした」「かんぴょうがこんなにおいしいとは思わなかった」「自分たちで作ったものなので残さず食べた」などの感想がありました。

今後も、食を通して優しさのあふれる環境を後世に繋いでいきたいと思えます。

(Y)

地域で頑張る就農者紹介



相楽さんは信楽町出身で、元々は美容師をされていました。一方、島津さんは神戸市出身ですが、現在はお二人とも信楽町で主にお茶の栽培をされています。

今回はそんなお二人に、就農についての話を伺いました。

Q：お茶の栽培を始めたきっかけは？

相楽：色々な高級食材関係のバイトをしていく中でお茶に興味を持ちました。

島津：相楽さんにお茶の作業のバイトを紹介してもらいました。相楽さんとは、お互い旅行中にネパールで知り合いました。

Q：現在はどんなことをされていますか？

相楽：全く農薬を使わずにお茶の栽培をしています。朝宮茶のベテラン農家と同じことをしていても勝てないので、違う方法で売ることを考え、自分で育てたお茶を自分で売っています。

島津：お茶とタマネギの栽培をしています。



さがら けんいち しまづ まさのり
相楽 顕一さん(左) 島津 真大さん(右)

Q：将来の目標は？

相楽：楽しく面白く遊んでやっているような仕事をしたいと考えています。お茶の活用方法を提案したりして、お茶の堅いイメージを変えたいと思っています。

島津：いいお茶を作って、のんびり暮らしたいと考えています。また、自分が来たように、若い人を呼びたいと思っています。

国が支える。安心が大きくなる

担い手 積立年金 【家財】

農業者年金

安心して豊かな老後のため、**農業者年金に加入しましょう!!**

旧年金の経営移譲年金を受給されている方で、後継者に委譲した農地を転用される場合、年金が減額されることがありますので、事前に農業委員会事務局までご相談ください。

農業者年金加入条件 農業者年金は、次の要件を満たす方はどなたでも加入できます。

- 60歳未満の方 ●年間60日以上農業に従事(配偶者・後継者も可) ●国民年金第1号被保険者

お問い合わせは...

甲賀市農業委員会事務局 TEL 65-0718

JAこうか農業振興課 TEL 65-0720

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

- 発行日 毎週金曜日
- 購読料 1ヶ月 700円
- 申込 農業委員会事務局 または地区農業委員へ

編集後記

「甲賀市農業委員会だより」は、年2回の発行を開始してから12年が経ち、本号で24号となりました。

発行に当たっては、農家の皆様に密着した農業情報を提供しようと、紙面をシリーズ化するなど内容の充実に努めて参りました。その結果、昨年4月には、全国コンクールで全国農業新聞特別賞を戴くことができました。

既報のとおり、本年7月から甲賀市農業委員会は新しい組織となります。これまでのご愛読に感謝申し上げますとともに、今後とも甲賀市農業委員会をよろしく願います。(T)